

第4回食育推進懇談会 議事要旨

(座長)

今回は、前回の意見のとりまとめと、パブリックコメントでの意見について、事務局から説明を受けた上で、次期計画の最終(案)と目標数値について併せて御意見をいただきたい。

(1) 第3回食育推進懇談会での主な意見について

(事務局)

(前回懇談会の議事要旨をもとに説明)

(2) 府民意見募集結果について

(事務局)

意見募集結果 52件(18人・団体)

(資料をもとに説明)

(3) 次期(第3次)食育推進計画の最終(案)について

(事務局)

(前回懇談会及び府民意見募集結果をもとに加筆修正した箇所の説明)

(委員)

新しい日付のものを買いたい意識が、食品ロスにつながることもあると記入すれば、消費者教育につながるのでは。

(委員)

他府県では、消費期限が近い商品を値下げするキャンペーンを実施したという話もあるので、教育するだけでなく消費行動に訴えたアイデアを実行していく、といったような表現ができないか。

(座長)

食品ロスに関し府民会議の設立とあるのは。

(事務局)

関係団体等含め設立を考えていく。併せて食品ロスについて研究を進める。これまでクローズアップされてこなかった深刻な問題。

(座長)

フランスでは昨年5月、国民議会で食品廃棄禁止の法律ができた。欧米での流れを日本、京都府でどう取り組んでいくか。条例づくりか。

(事務局)

法律とかぶってしまう等、条例での義務づけは難しい。また、業者が他府県にまたがっているので、条例はなじまないと考える。

(委員)

日本酒条例のように、どこかで発信をはじめるのが大切では。

(委員)

学校給食で食べ残されたパンが廃棄されることもある。台風で給食中止になったものを捨てることも。でも、授業では食品ロスをやるというのでは矛盾が生じる。京都市の生ごみ3キリ運動（使いキリ、食べキリ、水キリ）を参考に、楽しく取り組むことはできないか。

(事務局)

食品ロス対策は難しいが大切なこと。日付の新しい牛乳パックを棚の奥から取る、新鮮なキュウリを買うという消費行動がある。

直売所は新鮮さがメリットだが、古いものがロスとなってしまうことは課題。行政として、どこまで踏み込んでいくかが考えどころ。

(委員)

小学校で最初に教えるのは表示方法等で、安心安全を考えたり、新しいものを選んだりして買うことの大切さを教えている。大人になったときに、まだ大丈夫食べられるという判断ができる賢い消費者になってもらいたい。

(委員)

行政の問題として馴染むかどうか。消費者は新しいものを選択する。行政による方向付けより商業テクニックとして安くする方法等が健全である場合もある。

(委員)

食品流通の1/3ルール。海外は2/3。ここは行政が入っていけるのでは。

(事務局)

国は1/3から1/2に申し入れをしている。ごく一部で改正し始めている。

(委員)

家庭でのロスには過剰除去があるが、調理で改善できる。

(事務局)

ネット上の府民大学において、ロスのない調理法を映像で知らせる方法もある。

(委員)

府民大学の対象者は限られるのか。

(事務局)

インターネット上で自由に見てもらえるようにしたい。

(委員)

賞味期限が近いものを低コストで出しているとわかって購入する消費者もいる。生産される食品が多種多様、多すぎることで食品ロスに影響するのでは。

(委員)

学校給食への地元農林水産物の供給品目数の割合について、未達成の原因は。

(事務局)

府内産の米は使っているが、基本的な食材となる野菜の生産が少ない。

都市部はまとめて買うことが多く、物理的に難しい。また、価格を抑えなければならぬという課題もある。

(委員)

栄養教諭、家庭科の教師等と相談し、地元食材が高くても、生きた教材、地域の食文化として活用を工夫できないか。教育に生かすためには、教育委員会との調整が必要。

(事務局)

平成28年度には学校農園のある学校を増やし、活用を進める取り組みを教育部局と連携して実施する予定。学校農園でつくったものを給食に、一口でもいいので使えたら。学校がぜひやりたいという仕組みを作っていきたい。

(委員)

学校給食への地元農林水産物の供給について、規格がそろいにくいことよりも、量や品目の確保等が課題では。

(事務局)

学校給食だけでなく通常の販売でもいえる農業全体の課題でもある。小さな農業法人のグループ化、量の確保等解決する仕組みづくりを次年度進める予定。

(委員)

カット野菜で流通すれば人件費も抑えられる。そういった工場と連携してみるのはいかがでしょうか。

(事務局)

カット野菜のニーズもあると把握している。カット加工機に対する助成にも併せて取り組む予定。

(委員)

一般流通は規格をそろえているが、給食では規格にかかわらず地元産を使うことを選択できるように。また、自校給食とセンター給食があり量が全然違い、条件も違うが、センター給食でも子どもたちが収穫したものを使う日というのを決めている例もある。規格はあまり関係ない。

(委員)

学校でつくった農産物、自校給食なら使いやすい。給食の条件による。

(委員)

朝食欠食で脳出血等の割合が高くなるというデータがある。20代、30代でも朝食欠食があるが、その年代への対策が弱いのでは。

(事務局)

食品ロスと平行して若い世代への働きかけについて、勉強を進めていきたい。

(委員)

企業での食育として、野菜不足やバランスの悪い食事について予防リーフレットや、バランスの良いメニュー案を配布、配架する等が考えられる。

(委員)

自社食堂で650±30Kcal 定食メニューをやっている。栄養バランス、カロリーコントロールについて管理栄養士と相談し進めている。

(委員)

企業での食育のモデル的事業といえる。社員教育と環境を整えることの両方を進めた優良事例。他の企業では中々ここまで進まない。

(委員)

社員食堂がない支社等の対策が必要。好きなものを好きなだけ食べている。社内でも地域差がある。

(委員)

働く若い人の食生活(栄養)診断が必要。食べている量がとても少ない。全体量が足りていない。便秘、肌荒れにつながる。あらゆる世代で食事は大事。

(委員)

企業の食環境整備への働きかけや、料理の組み合わせわかるような取組が必要。

(座長)

小さな親切なのか、大きなお世話なのか、企業にどう捉えてもらうか。企業に対するアプローチを考えないといけない。

(委員)

社員の生活環境が改善できるよう健康の観点を含め教育は継続するが、若い社員へ働きかける以前に、学校でもう少し食事の改善について働きかけができれば。

(座長)

大学での働きかけは、どのようにできるか。

(委員)

消費者教育的に、自分の体をどう守るかという課題を大学生に意識付けさせたいが、三色食品群からもう一度やり直しが必要な学生もいる。

(委員)

新入社員対象のアンケートでは、学校で食育やりましたと回答がある。

(委員)

大きくなるほど、やらないと忘れていく。

(委員)

食育推進計画を広め、食育を実践してもらうには、スポーツにおける食の重要性と取組が参考になる。科学的データをもとに食事をとっている。子どもがあこがれているスポーツ選手がやっている、食事は大事だという発信は有効。

口からしか栄養は入ってこない。5欲のうち食欲だけがエネルギーになる。あとの欲は消耗するものばかり。

一般の人が感心を持っていることに関連づけて食育をPR。スポーツと食、体を動かして必要なものを食べるのが健康。運動と食のセット。

(委員)

テーマを絞って情報発信すると府民がつかみやすい、関心を持ちやすい。食、栄養、スポーツ、食と学力等。

(委員)

府民意見募集に上がっている意見が食育そのものだと思う。

日々の食のゆがみが大きくならないよう、食選力と調理力を養うこと。これが原点。「いま食べているものが、明日の私になる」等の意味合いを持った強いキャッチコピーがあれば。

いい文章をどうやって見せていくか、ホームページ見てくださいだけでは、見てもらえないのでは。広報手段の検討が必要。

(事務局)

フェイスブック等で府民に自らの食育を宣言してもらい、食育宣言を検討している。これをどう広げるか。芸能人や子どもの好きなキャラクター等に宣言してもらいウェブをつくり、盛り上げたい。委員の皆さんにも宣言してもらいたい。

(委員)

何をいつどれだけ食べるのかで人間の体が変わる。
広報誌、オリンピック選手の活用等でPRできないか。

(事務局)

京都トレーニングセンターで若い人や子どもが合宿できるようになる。施設で栄養相談、メディカルチェック、食の指導ができるので、その成果をPRする。

(委員)

スポーツ界では3食きっちり食べることが当たり前。普通の人にも共通する。

(委員)

スーパー食育スクールでは、朝食を食べたら部活動で勝つことが増え、食べないといけないと意識するようになった。親も協力して朝食を食べる環境になり、学力も上がっている。真剣に授業に向き合える力も付いている。これらがデータとして上がっている。データは出していった方がよい。親も実が見えてくると動き出す。

(委員)

ある私立の小学校では、100マス計算と朝ご飯の関係について科学的なデータがある。

(委員)

学力に関し、欠食や空腹のストレスによる影響がある。

(事務局)

朝食摂取と学力調査に関する文部科学省のデータを計画の資料としている。
計画や施策についてどう広報し知っていただくかが課題。

(座長)

子ども向けに〇〇戦隊等キャラクターを作り、非常に分かりやすくしている例もある。

(4) 次期(第3次)食育推進計画の目標について

(事務局)

目標項目は前回から変わっていない。

(座長)

数値について御意見は。

(委員)

全体的に意欲的な数値。チャレンジングな数値か、達成できそうな数値なのか。

(事務局)

目標はチャレンジングな数値とした。

(委員)

食品ロスについて目標は設定しないのか。

(事務局)

今後広がりを見せるが、今は施策がないので、足がかりをつくり、次期(第4次)での目標になると考えている。

また、流通は国レベルなので府だけでの目標とするのはどうか。

(座長)

他県では生ゴミ堆肥化NPOが段ボールコンポストを推進している。食品ロスの次に循環も課題になってくる。

(委員)

府内の学校でも生ゴミの堆肥化をやっているところがある。

(委員)

食品表示法や機能性表示食品等に関する講習会の開催を目標としているが、消費期限や賞味期限に対する理解不足から食品ロスにつながることも考えられるので講習会は有効であると考えるが、講習会、講演会、府民大学等全体として数が多すぎるように思うが、対応できるのか。

(事務局)

府民大学はHP上での講義。食品ロスと講習会は絡めて効率的に実施する。表示については課内の職員が説明者になる等の対応を考えている。

(座長)

(懇談会委員に対するお礼)

(事務局)

本日の御意見を踏まえた最終案を議会で報告した上で、次期(第3次)京都府食育推進計画とさせていただく。

(座長及び懇談会委員に対するお礼)